

1 当院血液検査室における臨床検査情報  
2 システム SIS を用いたデータチェックについての検  
3 討  
4

5 ○古川恭也 深海律子 吉崎英清(千葉県済生会習  
6 志野病院検査科)  
7

8 **【目的】**日常スクリーニング検査である CBC、白血  
9 球5分類(以下 Diff と略す)で異常値を示す症例に、  
10 造血器悪性腫瘍をはじめ他の疾患が含まれているこ  
11 とはルーチン業務として経験される事である。今回、  
12 臨床検査情報システム SIS を用いて、CBC、Diff  
13 とフラッグ情報から異常値のチェックを行う当院の  
14 運用について検討を行ったので報告する。

15 **【方法】**血液一般検査の依頼があったすべての検体  
16 について、CBC と Diff とフラッグ情報である IP メ  
17 ッセージから異常と判断されたものは、マニュアル  
18 確認し検査システムに結果を送信した。目視血液像  
19 の依頼のある検体と、XE-2100 で再検査が必要なも  
20 の、SIS のチェック条件により SP-1000i で血液像  
21 を作成するものの計3グループに分け、作成された  
22 標本については目視確認を行った。

23 **【結果】**XE-2100 で測定したデータをマニュアルで  
24 今回再確認したところ、IP メッセージがあっても標  
25 本が作成されない検体があった。また、SIS のデー  
26 タチェックにより作成された標本から血液疾患を疑  
27 い、骨髄検査で診断が確定された症例が7例あった。

28 **【考察】**チェック条件により作成された標本が血液  
29 疾患診断のきっかけとなったことより、当院で用い  
30 ている運用条件の有用性が確認された。しかし、前  
31 回値比較で標本作成されない検体があり、チェック  
32 条件変更の必要性が再確認された。

33 連絡先 047-473-1281  
34  
35  
36  
37  
38  
39